

日本保健物理学会 新 Newsletter 2019年4月16日号

送信者:一般社団法人日本保健物理学会<exec.off@jhps.or.jp> 2019/04/16 17:23:32

-----  
日本保健物理学会 新 Newsletter 2019年4月16日号  
-----

1. 学会関連情報

○理事会・企画委員会 シンポジウム及び総会開催のお知らせ

2019年6月20日(木)終日～21日(金)午前中 会場:東京大学 工学部2号館213講義室

・6月20日(木)

講演 「水晶体ガイドライン」(仮題) 9時30分～11時

シンポジウム1

「合意形成における放射線防護の役割/放射線防護は合意形成をどう支援できるか?」12時～15時

総会 15時～16時

懇親会 会場:「レストラン アブルボア」17時～19時

・6月21日(金)

シンポジウム2「緊急時モニタリングに関する国内外動向と展望」9時30分～12時30分

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/conv/page.cgi?id=79>

○低線量リスク委員会(日本保健物理学会と日本放射線影響学会合同委員会)

ワークショップ 「低線量リスクに関するコンセンサスと課題の明確化」開催

2019年6月21日(金)13:30～17:00

会場:東京大学 工学部2号館213講義室 ← 上記シンポジウムの後同じ場所で開催

本ワークショップでは、低線量リスクに関するコンセンサスと課題のとりまとめに向け、現在の検討状況を委員から紹介し、広く意見を伺います。

参加は会員・非会員を問いませんので、関心のある方々の多くのご参加をお願いします。

○企画委員会「放射性廃棄物処分に係わる生活圈被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会」の設置について  
お知らせ(4月15日)

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=153>

○企画委員会 「教育現場における低エネルギーX線を対象とした放射線安全管理に関する専門研究会」の設置について  
お知らせ(4月10日)

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/news/page.cgi?id=152>

○企画委員会 「放射線防護の専門家集団としての学会を支える企画活動」を日本原子力学会誌 アトモス(2019年3月号)に寄稿。下記にて全文公開。

<http://aes.jweb.sakura.ne.jp/wordpress/document/atomos-201903mokuji.pdf>

## 2. 関連する研究情報

- 総務省 平成31年度生体電磁環境研究及び電波の安全性に関する評価技術研究に係る提案の公募（締切:5月8日）  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01kiban16\\_02000207.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban16_02000207.html)
  
- 日本学術振興会「第10回育志賞受賞候補者の推薦について」優秀な大学院博士課程学生を顕彰  
受付期間6月3日～6月7日17:00（締切）  
<https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>
  
- 高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光実験施設の2019年度後期共同利用実験課題公募を開始  
<https://www2.kek.jp/imss/pf/use/proposal/>
  
- 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点 研究課題公募を開始（締切:5月10日）  
[http://www.ied.tsukuba.ac.jp/ernc/wp-content/uploads/2019/04/190410\\_press\\_release.pdf](http://www.ied.tsukuba.ac.jp/ernc/wp-content/uploads/2019/04/190410_press_release.pdf)
  
- 日本分析センター 放射能測定法シリーズ No.24「緊急時における $\gamma$ 線スペクトロメトリーのための試料前処理法」を改訂  
[http://www.kankyo-hoshano.go.jp/series/main\\_pdf\\_series\\_24.html](http://www.kankyo-hoshano.go.jp/series/main_pdf_series_24.html)

### (論文情報)

- Radiation Measurements Available online 2 April 2019  
原子力や放射線事故後の緊急時に一般の人が甲状腺の線量の測定を行うことを想定したときのテクニカルな勧告。  
具体的な測定法及び解釈について具体的なアドバイスを 記載。  
Technical recommendations for thyroid dose rate measurements made by members of the public  
Fojtik P et al  
<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1350448718307856#!>
  
- Mutat Res Rev 2019;779:36-44. doi: 10.1016/j.mrrev.2019.01.001.  
緑内障は、視覚障害の主因である(日本では第1要因)。放射線によって緑内障が誘発されることは古くから報告があるが、線量応答関係や誘発機構は、ほとんど不明である。  
本稿では、放射線治療(高線量被ばく)の有害事象である続発緑内障、原爆被ばく者で有意なリスク増加が報告されている正常眼圧開放隅角緑内障(原発緑内障の一種)など、放射線緑内障に関する最新知見を総説する。  
Glaucomagenesis following ionizing radiation exposure  
Hamada N et al  
<https://doi.org/10.1016/j.mrrev.2019.01.001>
  
- Radiat Res , 2019 Mar 29. [Epub ahead of print]

原爆生存者の疫学調査結果に医療被ばくの影響を調べた。原爆線量が1Gy以上の人で比較的医療被ばくが多かったが、5mGy - 1Gyの人は、5mGy未満の人と医療被ばくに有意な差はなかった。医療被ばくを考慮しても原爆放射線の影響評価には実質的な影響はなかった。

Medical radiation exposures among atomic bomb survivors: Understanding its impact on risk estimate of atomic bomb radiation

Sadakane A et al

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/30925137>

### 3. ニュースや社会の動き

○OECD/NEAと日本政府 (METI, MAFF) International Symposium/

Decommissioning, Reconstruction, Rehabilitation, and Food Safety: Rebuilding Post-Accident Confidence

3月26日に風評被害払拭に資することを目的として開催。前半は日本側の取り組み(地域活動含む)、後半はノルウェーやUKにおける食の管理とその対策の発表が行われ、福島での取り組みの現状と課題の整理が行われた。後日報告書も発行される。以下のリンクからプログラムと録画映像を閲覧可能。

<http://www.oecd-nea.org/rp/webinars/2019/food-safety/>

[https://oecdte.webtv-solution.com/5547/or/fukushima\\_workshop.html](https://oecdte.webtv-solution.com/5547/or/fukushima_workshop.html)

○日本原子力産業協会 次世代向けサイト「あつまれ!げんしりょくむら」のwebサイトを4月8日に開設。

批判が相次ぎ、13日に閉鎖

<http://village.jaif.or.jp>

○日本アイソトープ協会 獣医療におけるRI検査の啓発パンフレット「ペットのためのPET検査」を公開

(3月26日)

<https://www.jriass.or.jp/report/cat1/220.html>

○IAEA New Competition: Towards a Strong Radiation Safety Culture in Medicine (3月27日)

ヘルスケアにおける放射線安全文化を示すIAEAトレーニングプログラムへの医療放射線分野のプロフェッショナルや学生からの提案を4月30日まで受付。上位3人にはウィーンのIAEAでの発表のための旅費を助成。

○IAEA Strengthening the Protection of Patients who Need Multiple Imaging Exams

慢性疾患等を患う患者は長期の経過観察によって複数回のX線画像検査を受ける。IAEA専門家会議において15カ国、患者250万人の医療被ばく履歴データが発表され、1%以上の患者が繰り返される画像検査によって累積100mSv以上を被ばくしていることが明らかにされた。

同会議では、頻回な画像検査に対するガイドラインの強化など、被ばく低減に向けたいくつかの対策について同意がなされた。(4月1日)

<https://www.iaea.org/newscenter/news/strengthening-the-protection-of-patients-who-need-multiple-imaging-exams>

○国立環境研究所 NIES レターふくしま 4月号を刊行(4月5日)

<https://www.nies.go.jp/fukushima/pub-magazine.html>

○原子力規制庁 成田国際空港(株)から放射性同位元素の所在不明について報告を受理(4月10日)

成田国際空港(株)より、密封線源(Ni-63 ベータ線源, 555 MBq)を内蔵した爆発物検出装置の部品が所在不明になったとの報告があり、受理された。

当該部品から 50 cm 離れた場所の線量率は BG レベルとされる。同社は引き続き当該部品の捜索を行うとしている。

<https://www.nsr.go.jp/activity/bousai/trouble/houkoku/00000161.html>

#### 4. これからのイベント

○放射線安全フォーラム 第60回放射線防護研究会「X線源を考える」(4月21日、東京大学・浅野キャンパス 武田先端知ビル5階 武田ホール)

[http://www.rsf.or.jp/events\\_research.html](http://www.rsf.or.jp/events_research.html)

○京都大学基礎物理学研究所研究会 放射線の生体影響解明への分野横断による挑戦(5月23~25日、京都大学基礎物理学研究所 研究棟 K206)

<https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~manabe/cebe2019.html>

○分野を横断した放射線疫学の研究会(6月1日、慶應義塾大学・三田キャンパス 南校舎 445 教室)

<https://sites.google.com/view/radepi/>

○日本放射線公衆安全学会 第29回講習会「改正法に対する医療現場対応を学ぼう」

(6月15日、日本診療放射線技師会 講義室)

放射線障害防止法、医療法施行規則の改正への具体的対応に関する講演会(定員50人、先着順)(6/24-25)

<http://jrps-net.jp>

○「大学等放射線施設による緊急モニタリングプラットフォーム構築のための教育研究プログラム」

(原子力規制人材育成事業)

佐賀県オフサイトセンター(緊急モニタリングセンター)と玄海原子力発電所の見学セミナーを開催

参加費は無料。学生の旅費は本事業で支援。申込締切:5月31日

<https://www-sdc.med.nagasaki-u.ac.jp/nuric/ricnew/docs/genkaip.pdf>

申し込みサイト:<https://forms.gle/1R4reWeLsXYKzcGb7>

○日本アイソトープ協会 2019年度看護教員・看護職および保健師のための放射線教育研修会

(開催日時等の詳細はリンクにてご確認ください)

看護教員・看護職:<https://www.jrias.or.jp/seminar/seminar/pdf/2019kangokenshu.pdf>

保健師:<https://www.jrias.or.jp/seminar/seminar/pdf/2019hokenshikenshu.pdf>

○JAEA2019年度防災業務関係者自らの放射線防護研修（茨城、福井にて計6回。開催日時等の詳細はリンクにてご確認ください）

[https://www.jaea.go.jp/04/shien/training\\_j.html](https://www.jaea.go.jp/04/shien/training_j.html)

○QST 放射線医学総合研究所一般公開（4月21日、放射線医学総合研究所）

[https://www.nirs.qst.go.jp/information/event/2019/04\\_21.html](https://www.nirs.qst.go.jp/information/event/2019/04_21.html)

○ICRP2019(11月19-21日、アデレード オーストラリア)一般演題セッションを初めて併催（演題登録締切：7月1日）Early Bird Ratesは8月1日まで

<https://icrp2019.com>

○OECD/NEA主催 第2回 International Radiological Protection School (IRPS-2) (2019年8月19-23日、ストックホルム) 応募締切：2019年5月31日

<https://www.oecd-nea.org/rp/irps/>

#### 5. 公募情報、学生・ポスドク受入情報

○高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授1名（締切：5月29日）

<https://www.kek.jp/ja/Jobs/2019/03/22/0300/>

○広島大学 原爆放射線医科学研究所 助教1名（計量生物研究分野）（締切：7月1日）

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/116956/detail\\_J.pdf](https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/116956/detail_J.pdf)

○新潟大学教育研究院医歯学系保健学系列 放射線技術科学分野 准教授1名（締切：5月7日）

<http://www.clg.niigata-u.ac.jp/%e6%95%99%e5%93%a1%e5%85%ac%e5%8b%9f/>

○青山学院大学理工学部アイソトープ実験室 助手1名（締切：5月31日）

[https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D119040283&In\\_jor=0](https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D119040283&In_jor=0)

既発行の新 Newsletter はこちらです。<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/newsletter/page.cgi>

新 Newsletter にて発信を希望する情報をお持ちの方は、学会事務局へご連絡・お問い合わせください。

— . . . . .  
【発行】一般社団法人日本保健物理学会

【編集】同企画委員会

【発信元】同学会事務局

TEL: 03-6205-4649 FAX: 03-6205-4659

E-mail: [exec.off@jhps.or.jp](mailto:exec.off@jhps.or.jp)